

Funky Goods in Korea

お堅いお国柄ゆえか
違法コピーソフトも「変なもの」も見当たらない

龍山電子商街を 行く

波多 利朗

注1) タクシー

韓国のタクシーには2種類ある。ひとつは中型タクシーで、これは基本料金が1000ウォンのもの。基本料金は安いのだが、外国人旅行者だとボラれることが多いので、注意が必要だ。

もうひとつは模範タクシーと呼ばれるもので、こちらは基本料金が3000ウォンと多少高めではあるが、ボラれる心配はない。模範タクシーは車体が黒いので、すぐ見分けがつく。

注2) 漢江(Han-gang)

ソウル市を東西に流れる大河。真冬は水面が凍り付きスケートができるそうであるが、最近では暖冬のせいであまり凍らなくなったということだ。

注3) 龍山電子商街

さしずめ東京の秋葉原といった雰囲気のある街である。コンピュータ以外にも、オーディオ関連製品や家電店も多い。

注4) ソウルの地下鉄

非常によくできているのだが、ひとつだけ注意が必要だ。上りと下りのホームが分かれている駅では、改札に入る前に、どちらのホームの改札かを確認する必要がある。というのは、一度上りのホームに入ってしまった後で、下りのホームへ移動するためには、一回改札を出ないと行けない構造になっているところが多いからだ。

ソウルの地下鉄には、新聞の車内販売がある。乗車していると、新聞の束を小脇に抱えた販売員が大きな声をあげながら新聞を売り歩く。新聞販売程度なら驚かないが、この前乗車したとき、シャツの展示販売が始まったのには驚いた。おじさんがハンガーにかけた

10月21日(金曜日)の朝のこと、出張で韓国を訪問していた筆者は、宿舎を変えるためにソウル市中心部にある「ロッテホテル」から「インターコンチネンタルホテル」へ、タクシー(注1)で移動していた。ソウル市内の交通渋滞は有名だが、それにしてもこの日の渋滞は最悪であった。

その時は、道路工事でもしているのだろう程度にしか思わなかったのであるが、その後ニュースで漢江(Han-gang)(注2)にかかる聖水大橋が落下し、32名が死亡するという事故が起こったことを知った(写真1)。もう少し早ければ、あるいは事故に遭遇したかもしれない。

まさに、一寸先は闇、なにが起こるか、わかったものではないのである。

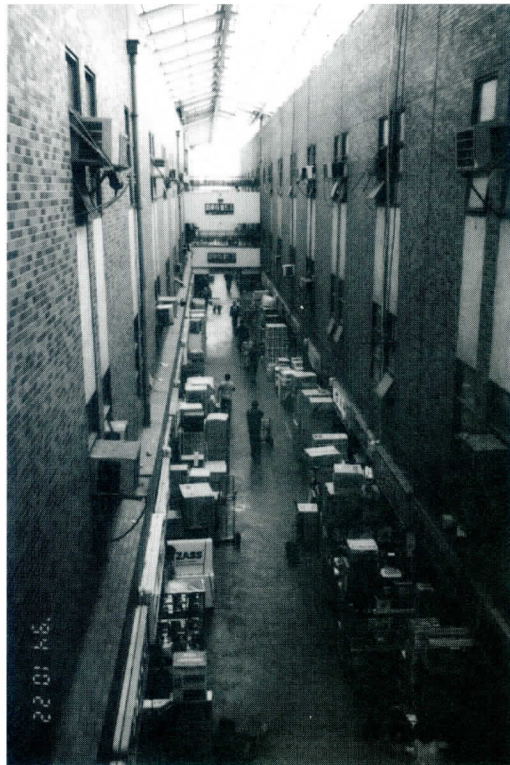


写真3 ビルとビル間の通路。アーケードになっている



写真1 聖水大橋落下を伝える韓国の新聞

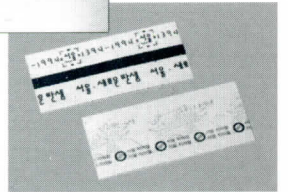


写真2 ソウル地下鉄の切符

龍山電子商街へは地下鉄で

そんなことがあった翌日、一日かけて龍山電子商街(注3)を徘徊する機会を得た。

龍山電子商街へのアクセスは、地下鉄が便利である。ソウルの地下鉄(注4)は、市内であればほとんどのところが、一律350ウォン(注5)という低価格で移動できる。しかも経路別に色分けされており、駅には番号が付いているので初心者にもわかりやすい。切符(写真2)の発売や改札は完全に自動化されており、さながら香港の地下鉄のようである。



写真4 龍山電子商街のビル内部

電子商街へ行くには、地下鉄4号線の新龍山駅(シニョンサン)で下車する。そこから歩いて約20分ほどで、電子商街中心部へ行くことができる。

龍山電子商街は、いくつかのビルが集まって構成されているが、鰻の寝床みたいな細長いビル(写真3、4)が多いのが特徴である。ビル内部は、廊下の両側に店舗が並び、秋葉原のラジオデパートのような感じを受ける(写真5)。

龍山電子商街の詳細については、すでに本誌94年11月号で山口真也氏がレポートされているので、そちらをご覧ください。ここでとはくに気がついた点のみを報告する。



写真5 龍山電子商街で見つけたジャンク屋の店先

見本のシャツを、吊革につるして売り始めたのである。

とにかく、とても楽しい地下鉄であることには違いない。

注5) ウォン

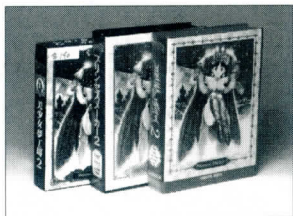
1994年10月現在のレートでは、1ウォンは約0.125円であった。

● 龍山電子商街で、思わず衝動買いをしてしまったが……



▲ Princess Maker 2のハンゲル版

このソフトは、本家日本語版のほかにも、中文版、ハンゲル版が発売されており、なかなか国際的なソフトになっている。価格は2万8000ウォンであった。



◀ Korea Computer Magazine Publishing社発行のフリーソフトゲーム集



韓国製ゲームのほかに、アメリカ製ゲームも入っている。価格は1万8000ウォン。



◀ シェアウェア集

路上のワゴンサービスで購入した。DOSとWindowsのソフトがジャンル別に格納されており、ハンゲル版のインストーラが付属する。収納されているソフトは、アメリカのものが多そうだ。価格は1万ウォン。



◀ Windows用フリーソフト集

ビデオクリップやサウンドクリップがたくさん入っている。価格は2万ウォン。



▲ Han Yang Media社制作の3D Girl Vo1.3

韓国のモデルの写真集である。このソフトには、紙のフレームに赤と青のセロファンを貼り付けた、怪しい立体眼鏡が付属する。これをかけて見ると、写真が浮き出て見えるというのであるが……効果はそれほどでもない。

モデルは全部で9名。Windows上で動作する専用のビューワーが付いている。また、3Dだと目が疲れるといふ人のために、通常の2Dのデータも入っている。商品の外観が結構怪しいので、思わず期待してしまうのであるが、内容は普通の写真集だ。龍山のCD-ROM専門店です3万3000ウォンであった。

注6) 痛い目に遭っているの
で

以前、VL+ISA+PCIとい
うなんでもありのマザー
ボードを購入したが、チッ
プセットとVGAカードとの
相性が悪く、Windowsが高
解像度で起動できない、と
いうトラブルに見舞われた
ことがあった。

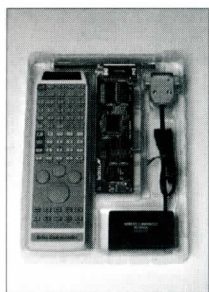


写真7 香港のワイヤレス・キーボード「InfraCommander」

ハードウェア事情

龍山でもPCI製品がかなり出回っているが、やはりまだVLバスが主流となっているようだ。

ALIやCONTAQ、SISのチップセットを使用したISA+VL+PCIといったマザーボードもよく見かけたが、筆者は以前この手のマザーボードを購入して痛い目に遭っているの^(注6)、購入は差し控えた。

マザーボードでは、台湾製以外にも韓国製のものも多く見受けられる。

山口氏のレポートにもあるように、韓国ではVGAカードにET-4000系列のチップを使用したものをよく見かけた。

日本では、IBM互換機という趣味に使用している人がまだ多いようであるが、韓国ではビジネスに使用するケースがほとんどである。そのためか、日本のようにスピードを追求するような使い方はされず、ビデオカードもダイヤモンド社系の高速なものは、あまり見かけることはない。ショップの店頭でも、ベンチマークテストを行っているところは、ほとんど見られなかった。考えてみれば、これが本来あるべき姿なのかもしれないが……。

ソフトウェア事情

筆者は94年5月に香港電腦中心を訪問したことがあったが、そのときは違法ソフトコピー屋が非常に多くて驚いたものだった。しかし韓国では、当局の取り締まりが相当厳しいためか、少なくとも表向きには違法ソフトコピー屋といったものはまったく見当たらず、どこも正規品を販売するところばかりである。現地駐在の友人に聞くと、ソウル市内にも違法コピーを販売するソフト屋があるそうだが、今回は訪問できなかった。

ソフトショップで販売されている英語版のゲームソフトなどは、パッケージとマニュアルをハングルに翻訳している商品が多い。「MEGA RACE」や「STRIKE COMMANDER」などといった有名なゲームは、だいたい揃っている。値段は日本で購入するよりも若干安いといった感じだ。

韓国でもCD-ROMソフトがはやっており、CD-ROM専門店も見受けられる。いくつかのショップを覗いてみたが、品揃えはやはり日本のほうがいようだ。また、堅いお国柄なので、日本のようにいわゆる18禁のアダルト物はほとんど見かけることがない。

またまたキーボードにご執心

さて、この連載はなるべく「変なもの」を見つけてきて紹介するコーナーなので、ここでも韓国版Funky



写真6 BRAIN TECHNOLOGY社製ワイヤレス・キーボード

Goodsを紹介する。

とはいえ、今回の徘徊では、香港編の時のように、それほど「変なもの」を見つけることはできなかった。

①ワイヤレス・キーボード

筆者はキーボードにこだわる性格なので、今回もキーボードを購入してきてしまった。

写真6は、韓国BRAIN TECHNOLOGY社製の、ワイヤレス・キーボードである。その名のとおりに、キーボードデータをFM電波で送信することによって、パソコン本体との接続ケーブルをなくしたキーボードである。

これに似たものとしては、香港で購入した「Infra



写真8 ワイヤレス・キーボードの発信装置

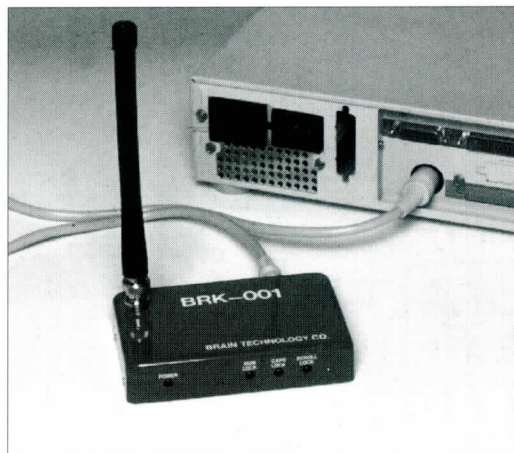


写真9 発信装置は本体に繋ぐ

Commander」という商品がある(写真7)。「Infra Commander」は赤外線を使用し、形もビデオデッキのリモコンのような形であったが、このワイヤレス・キーボードはIBMの101キーボードそのものだ。価格は10万5000ウォンであった。

この製品は、発信装置とキーボード本体とから構成される。発信装置は真っ青のメタルの箱にアンテナが付いたもので、パソコン本体のキーボードコネクタと付属のケーブルで接続する。その無骨なデザインは、あたかも鉄人28号の正太郎クンの操縦装置(リモコン)を想い起こさせる。メタルの箱の側面には、モニター用としてSCROLL LOCK、CAPS LOCK、およびNUM LOCKの状態を示すLEDが付いている(写真8、9)。

キーボード側の上面には、受信用アンテナが立つようになっている。また、キーボード背面には、PS-2キーボードコネクタと、DC-INコネクタ、パワースイッチが付いている(写真10)。PS-2キーボードコネクタは、本キーボードをワイヤレスとしてではなく、通常のキーボードと同様にケーブルで接続するとき使用する。

DC-INコネクタには、付属のACアダプタを接続し、キーボード本体内蔵の電池を充電する際に使用する。付属のACアダプタは現代電気製のもので、220Vと

110Vの両方に対応している。

キーボードは、クリック感のないタイプで、キートップにはハングルが印刷されている。日本では「バックスラッシュ」は「¥」マークになっているが、韓国では「ウォン」マークとなっている(写真11)。なお、このワイヤレス・キーボードの動作距離は、発信装置から5m以内となっている。

②超小型キーボード

写真12は、SEJIN ELECTRON INC.製の、超小型キーボードである。キーの数は86個で、通常のノートパソコンのキーボードを切り出してきたような感じである。

とにかく小さくて薄いのが特徴で、本体の厚さは、最も厚い部分で約2.5cm、薄いところでは1.5cmしかない(写真13)。クリック感はないが、キータッチはなかなかよい。キートップにはハングルが印刷されている。

難を言えば、もう少しカーソルキーを大きくしてもらいたい。価格は4万5000ウォンであった。

*

互換機好きの廃人ならば、龍山電子商街を歩くだけで軽く一日つぶすことができる。

韓国に行く機会があったら、観光のついでに立ち寄られてはいかがだろうか。

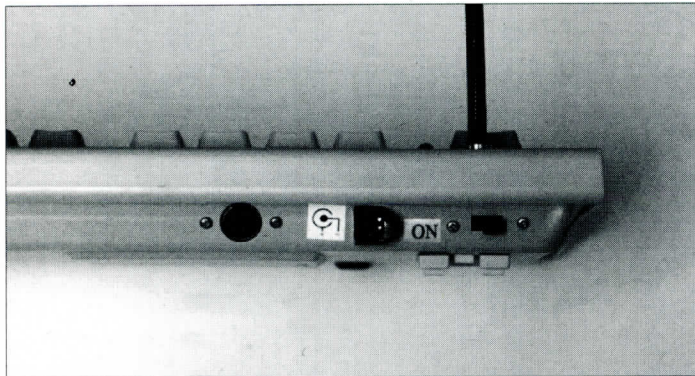


写真10 キーボードの背面



写真12 SEJIN ELECTRON社の超小型キーボード



写真11 キートップ。ハングル文字とウォンマークが刻印されている

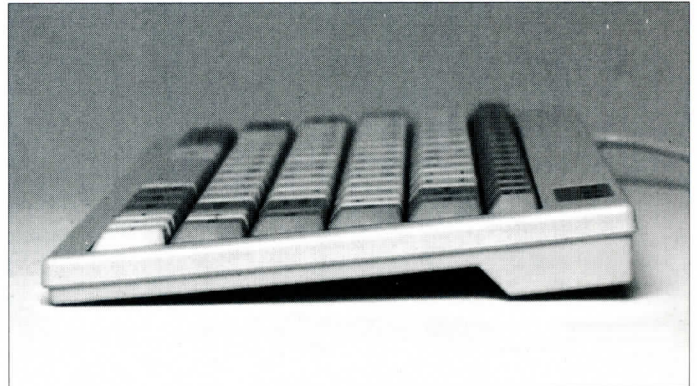


写真13 超小型キーボードの側面。かなり薄い